

表2 イタリアンライグラス「サクラワセ」

(昭58 雪印種苗(株) 宮崎試験地)

品 種	初期生育	春の草勢	出穂始	草型			刈取り時生育段階		草丈(cm)		乾物率(%)			乾物収量(kg/10a)		
	12/23	3/17	(月日)	I	3/23	4/5	I	II	I	II	I	II	計	I	II	計
サクラワセ	8.0	8.0	3.13	1.7	9.0	8.3	出穂期	開花終	107	106	17.4	20.5	18.4	582(127)	306(103)	888(118)
市販種(M・W)	6.0	6.0	3.24	3.0	6.3	7.3	出穂初期	開花期	91	93	14.0	16.9	15.0	459(100)	296(100)	755(100)
普通種	3.0	4.0	—	4.7	6.6	8.0	伸長期	出穂始	73	90	13.4	13.8	13.6	417(91)	307(104)	724(96)

注) 播種期: 昭57.11.13 収量調査月日: I—4月5日, II—5月10日 草型: 9 ホフク型~1 直立型 耐倒伏性: 9 極強~1 極弱  
初期生育, 春の草勢: 9 極良~1 極不良

が発揮されています。なお、収穫後の残株・残根量は少なく、圃場耕起作業等の支障を軽減するメリットも備え、今後広範囲での普及が期待され、優良品種の資質を十二分に備えた品種と言えます。

○ソルガム夏播き→晩秋サイレージ調製

トウモロコシと比較し、ソルガムで発酵品質の優れたサイレージを作ることは難しいこととされてきました。特に播種時期の夏にこだわる必要はありませんが、晩秋(収穫)時には昼・夜の温度較差によって糖分蓄積が進み、更に降霜による水分調整も立毛状態で進み、その結果、比較的発酵品質に優れたソルガムサイレージを容易に得ることができるようになりました。作付体系としては①中長期利用のイタリアンライグラスの後作、②温度条件に恵まれる地帯での早期水稻の後作、③トウモロコシ早播き栽培の後作等、適用範囲も広いと判断されます。

千葉研究農場における収穫適期を迎えた「雪印

表3 播種期と温度条件による夏播き最適品種

地 域	播 種 期	(良 好) ← 温度条件 → (劣 る)
関 東 以 西	7 / 中~8 / 上 8 / 中	ビッグシュガーソルゴー 雪印ハイブリッドソルゴー ハイシュガーソルゴー スイートソルゴー
九 州	7 / 下~8 / 上 8 / 中~8 / 下	ビッグシュガーソルゴー, 雪印ハイブリッドソルゴー, ハイシュガーソルゴー スイートソルゴー, P988(バイオニアソルゴー)

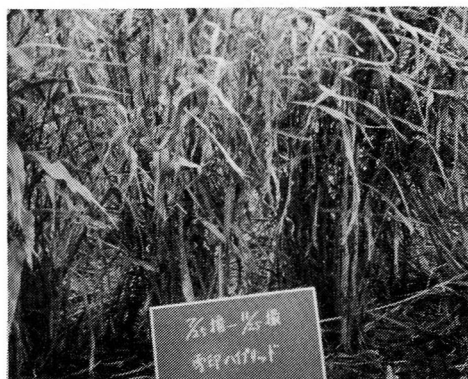


写真2 夏播き栽培でサイレージ収穫適期を迎えた「雪印ハイブリッドソルゴー」

ハイブリッドソルゴー」の草姿を写真2に示し、播種期と温度条件による夏播き最適品種を表3に示しています。西南暖地では既に定着技術となりつつあり、今後は四倍体イタリアンライグラスとの組み合わせや、関東地域以西での幅広い普及が期待されてきます。

# サイトウ「スノークロップ112」の 品種特性と栽培体系

雪印種苗(株)千葉研究農場 近 江 公

1 つるあり種とつるなし種

サイトウ(サイインゲン)はつるあり種とつるなし種、またそれぞれ丸莢タイプと平莢タイプに

大別することができます（これらの中間型タイプもありますが）。そもそもつるなし種は、つるあり種の中からつるの伸びない矮性タイプのもを選抜固定した品種群で、これらは機械化収穫に適合させるため、アメリカ、ヨーロッパを中心に育成開発されました。日本においても、これらつるなし種が導入されましたが、収穫方法の異なる我が国においては依然としてつるあり種が中心になっています。しかし、つるなし種は短期間に収穫することができますので、前後作の関係で畑の利用期間が短い場合や他の作物の育苗、初期生育期間を利用する場合、またつるあり種では倒伏してしまう台風到来時期など、その利用価値は捨てがたいものがあります。

## 2 作 型

サイトウは、前述したとおり、比較的短期間での間作的に利用される場合が多く、従って作型も多岐に及んでいますが、図1のように、主要産地での作型はほぼ決まっています。この図は東京都市場のものなので、大阪、名古屋など関西方面の市場とは異なりますが、関東においては福島、千葉、茨城3県の入荷量が大部分を占め、特に5、6月の千葉産から7月の茨城産、そして8、9月の福島産と、この5カ月に集中しています。そして11月から4月までは沖縄、高知を始めとする西南暖地の入荷量がほとんどを占めています。

表1は、昭和58年の東京都市場の月別入荷量とその単価を示したものです。入荷量の多くなる5月から10月までは単価が低く、逆に11月から4月までは入荷量が少なく、そのため単価は高くなっています。

## 3 品 種

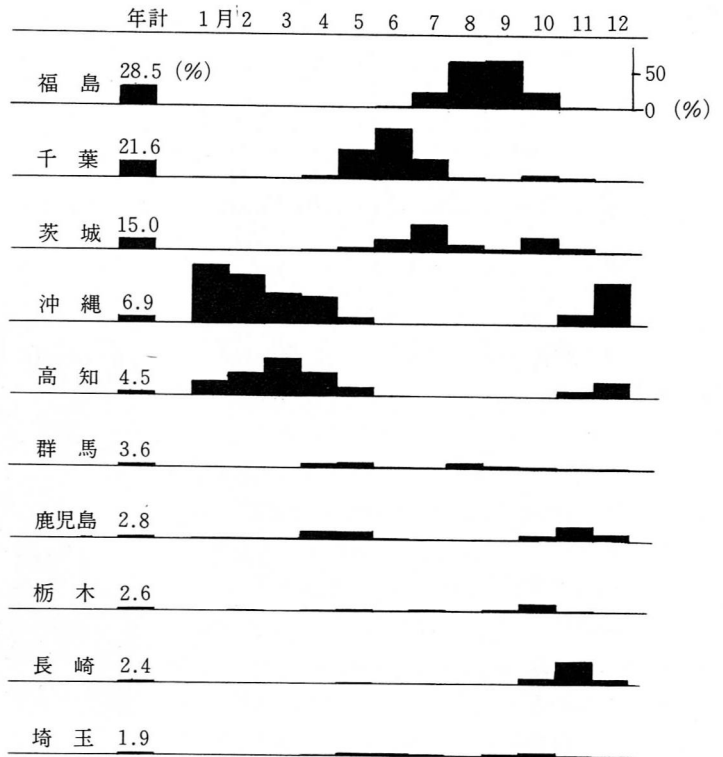


図1 東京都青果市場における県別・月別入荷数量割合  
(昭.58 東京都中央卸売市場青果物流通年報「野菜編」  
/東京青果物情報センター)

一般に、つるあり種は長期収穫が可能で収量もあがりますが、つるなし種は短期間で終わってしまうので、収量性はつるあり種と比べると劣ります。しかし、品質的にはつるなし種の方が良いものが多く、従って単価の高い時期をねらって良品の品種を出荷することが重要なポイントになります。

## 4 「スノークロップ 112」の品種特性

既に昨年2月号の本誌でご紹介致しましたが、「スノークロップ 112」は弊社で開発育成したつるなし、すじなし丸莢の優良品種です。

スノークロップ 112の最大の特徴は、その莢の品質で、濃緑色のほとんど曲がりのない莢は市場

表1 サイトウの入荷量と価格（東京都市場，昭.58.1～12月）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
入 荷 量 (t)	201	148	141	281	790	1,791	1,986	1,735	1,893	1,031	375	335
価 格(円/kg)	1,139	1,229	1,513	1,035	694	447	421	479	391	515	911	941

表2 主要流通品種の特性

(昭57~58 千葉研究農場)

品 種 名	早晩性	花 色	草 丈	莢 の 特 性						
				色	曲がり	横断面	くびれ	長 さ	幅	上物率
スノークロップ 112	中 生	白	50cm	5	2	7	無	13cm	0.7cm	85%
キーストンすじなし江戸川	極早生	紫	55	3	2	5	有	14	0.9	80
サ ー ベ ル	中 生	白	55	4	1	5	有	14	0.8	85

評点 色 1:淡緑 5:濃緑  
 曲がり 1:直 5:強く曲がる  
 横断面 1:偏平形 5:円形 7:心臓形

でも高く評価されています。また、生産者にとってサイトウ栽培の一番の泣きどころとなっている収穫の手間においても、今までの品種では取り遅れによって莢を太らせてダメにしてしまうというケースが多々ありましたが、この品種は収穫適期（莢長12~13cm、莢幅7~8mm）に到達してからの肥大が緩慢で、また色落ちも遅く、多少取り遅れても品質の劣化が遅いという特徴もっています。熟期はつるなし種の中では中生にあたり、早生品種（例えばキーストンすじなし江戸川など）と比較しますと1週間程度遅れますが、着花はすこぶる良く、収量的には早生品種と比べても全くそんな色ありません。また、菌核病や灰色かび病などにも強く、非常に作りやすい品種です。



収穫適期の「スノークロップ 112」

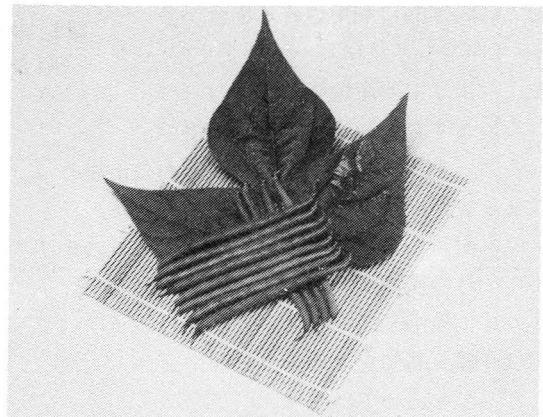
### 5 「スノークロップ 112」の栽培体系

その品種の持っている特性を最大限に発揮させるためには、その適合させる作型及び市場性の選定が重要になります。逆に言えば、その地域での他作物との作付体系や出荷先の市場性を考えあわせて、その地域、地域での作型が決まってくるので、その作型に合致した品種の選定が重要になるわけです。

スノークロップ 112 は、収量性よりもむしろ品質面を重視して育成した品種です。従って、関東、東北においては春の促成と秋の抑制栽培、また関西以南の暖地においては、秋の抑制から春播きまでの冬期間を含めての栽培が最もこの品種の特性を生かす作型だといえるでしょう。

### 6 あとがき

サイトウに限らず、野菜の大部分のものは、もはや周年供給、周年栽培が普通になってきています。それは、施設・資材の普及と輸送機関の発達



スマートで曲がりのない商品価値の高い「スノークロップ 112」の莢

などに負うところが大きいと思われませんが、品種面においても、これらの各作型に適合した品種の育成が盛んに行われてきています。例えば、寒さに強いもの、逆に暑さに強いもの、あるいは日長、温度に鈍感なものなど、これらの品種特性の分化はますます盛んに行われていくと思われれます。従って、これからはこれらの細かく分化された品種の中から、いかに適合した品種を選定するかが重要なポイントになるといえるでしょう。